

平成26年度 自己評価書

学 校 名	和歌山市立伏虎中学校
校 長 氏 名	藤 本 禎 男
作 成 日	平成27年3月10日

1 教育目標

活気に満ちた伏虎中学校 ～美しく、仲良く、静かで、元気ある学校～

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点 目 標 P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3小学校との連携をより一層密にして、小中一貫教育校にむけ推進することができた。 ・ カナダのリッチモンド市に訪問するなど、国際交流事業の推進を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部から指導者を招聘し、生徒の心に響く「道徳の時間」となるように授業力の向上を図ることができた。 ・ 生徒会役員、保護者や教職員であいさつ運動を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国や和歌山県の学力調査で、優秀な結果を残すことができた。 ・ 中学校3年生の約60%の生徒が、英語検定3級程度の実力を身に付けることができた。 ・ ノートづくりを徹底することができた。
取組 の 状 況 D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4校交流会を開催するとともに、児童・生徒の交流を様々な学校行事で実施した。 ・ カナダのリッチモンド市を訪問するなど、国際交流を深める中で、日本の良さを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の授業を大切にするとともに、中心発問や板書などの方法を教員が学習できた。 ・ 様々な学校行事を通じて、生徒に命の大切さを訴え続けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2・3学年において、英語の授業を少人数で実施したことで、コミュニケーション能力が身に付いた。 ・ 学習発表会で、プレゼンテーションすることで発表力が身に付いた。
取評 組価 の結 成果 果C と 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中一貫教育校の開校が2年後となり、4校の交流は深まっているものの、各教科等のカリキュラム編成や指導形態等をどのようにするかについての課題が残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「道徳の時間」のさらなる確保に務めるとともに、授業力をアップさせる必要がある。 ・ 生徒会の役員はたいへん真面目に仕事してくれるが、もっと主体的に行動できるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分である生徒は各学年ともに数名いる。ことから、放課後等でより一層下位層を少なくするような手立てが必要である。
次改 年善 度方 に法 向A け て の	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年度開校に向け、8月3日に4校合同の第1回現職教育を開催し、その後数回各教科等で独自で開催する予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「道徳の時間」を大切にを合い言葉に、公開授業などを実施し、3小学校の教員や保護者に参観を呼びかける。 ・ 生徒会役員に課題は何か考えさせ、それを解決させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科ともに問題解決型の授業やグループ学習などを計画的に取り入れていく。 ・ 英語の授業で少人数指導を維持し、コミュニケーション能力を高めていく。

3 その他の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒数が少ないことから教員数も少なく、そうしたことから免許外の教科を指導しなくてはいけない状況にある。 ・ 部活動においては、専門的に指導できる教員がいない部がある。 ・ 外国語活動だけでなく他の教科での実施や、小学校から中学校へ教科指導ができるような体制をできるだけ早い段階で実施していきたい。
--